なんたる星

泥ロボ
はだし
ナイス害
恋をしている
迂回する案
スコヲプ
真匿名

③月号

【目次】

連作

「すっごく暇」・・・・・・はだし

「春の背骨」・・・・・・ナイス害

「ジャムの量」・・・・・・泥ロボ

「ＱＵＯＴＡＴＩＯＮ」・・・・・・恋をしている

「Ｄｏｍａｉｎ」・・・・・・迂回する案

「歩幅」・・・・・・スコヲプ

競作
「優しい犯人」

編集後記

すっごく暇　　はだし

遠ざかるキリンの群れとSHAZNAたち〈ぼくはSHAZNAの方をみていた〉
明け方のガソリンスタンド、青い空　スマホの中には誰もいない
春の使者だらけの街はやっちゃいけないことがもう、ものすごく、ある
のど飴をいっこなめきるミッションを終えてここ、どこ　二駅となり
沢蟹がふやけた雑誌のうえをいく　見届けて立ち上がってあかくて
退屈を叱ってやろうと思いますバニラアイスへ銀の匙ふかく
テレビは逆に日々ぼくをみていたのでしょう　したことのない動きしてみる
眠りましょう、製氷皿へと割り入れたうずら卵のように正しく
河原でバーベキューやってる　でもぼくの歩く速度は変わらない　ゆく
自転車で買い物へ行くときのぼく（あすからいろんなとこでみれます）

春の背骨

ナイス害

春がきて春春春と続くから君はまさしく春じゃないのか
メキシコの幻覚キノコを崇めてるシャーマンみたいな寝顔に迫る
膝上にハシビロコウが眠る朝 恐れも逃げる幻触の君
たんたった背を這う指が音に合う涙の波は二拍三連
飴玉を口で渡せば音が消え「た」っと弾けるシガーソケット
既読という毒に侵され朝遠く愚の矛先は草原の姫
切り札をメンコのように返されてその風圧は服を剥がした
花びらを割いたばかりの指を取り輪くぐりさせよう風はスムーズ

ジャムの量

泥ロボ

レンコンの隙間に子犬を逃がしたら残さず内緒の話をしよう
黄昏に菜箸は小気味良く回りシェフの冷製パスタがまずい
灯台の光すらすら避けながらすぐにあなたに叱られる小屋
ラブアンドピースでもって魚焼き器のすみずみを汚すぼくたち
しあわせに暮らせる夜はカップ麺こぼしちゃっても拭かなくてよい
台風はいま上空にさしかかりあなたのギンガムチェックを握る
こんぺいとうこんぺいとうこんぺいとうがワインの糖に弄ばれて
飲み干した15パーセント熱気球あなたが思うほど私じゃない
右手にジャム左手にジャム公平に使いきる日が来たらいいのに
だらだらの薄荷煙草に火を点ける　あなたを嫌いになりますように

ＱＵＯＴＡＴＩＯＮ　　恋をしている

蛇口からひかりが見えた瞬間に産まれた　とだけ教えてくれた
（幸村貞夫『スパンコール』より）

そう言ってベルカは歌いはじめます。それだけでもう一面のクラゲ
（ネシーラ・ケイト『マルロックはマルロックの事を話す』より）

新谷は犬歯を集めて売っていた。私に気付くとわずかに、ぶくらむ
（上田なずめ『京都廟』より）

魔女として生きてきたけど月経の周期はやっぱ変えたくないわ
（矢板サエ『紫陽花ビッグガール』より）

花を摘むときもお前を呼ぶときも加減を間違えてわらう、せきこむ
（古堂健一とザ・幽霊バンド『遅くなることを誰かに告げていく』より）

Silent zoo silent zoo silent zoo silent zoo silent zoo
（Michael Marton『silent zoo』より）

新幹線妊娠号が通るので女性はおまたを押さえてなさい
（臨月宇宙子『こちら処女返還科総務部その４』より）

何でもいい、ナコちゃん、僕はそれでいい。もう一度お茶の成分を読んで
（内野春人『奈子』より）

あくびって一番弱い希望だと私は夏の蒲田で知った
（上田なずめ『水に浮く』より）

真夜中を開けたら二分でたどりつく豚栗鼠駱駝専用碁会所
（恋をしている『ＱＵＯＴＡＴＩＯＮ』より）

Domain　　迂回する案

隠し事くらいはしますシャンパンを開けてる隙に改行改行
空ジョッキ　野菜スティック　粉チーズ　触れる順番見る見られてる
どあっぷで指紋をなぞるこの溝のどの深さからきみなのですか
もうそろそろハイタッチと呼ぶのをやめないか　水っぽい音するこの行為
確認を一日一つ減らしてく以心伝心の修行をねだる
教えてない名前すらない感情が十九個あり都庁もあって
砂の山こっちとそっちで穴掘って手をつながない　ねこを撫でる
あるけれどまだ渡さない合鍵で内側のノブ叩く音すき
観劇をしよう幕間なく進む舞台が心臓の論理積
笑ったね　人が死んだね　大切なものの定義を口移し噛む

歩幅

スコラプ

大切なことは小声で言うひとの目当てのカフェは少し目立たぬ
冬の声空気を切り裂くようでいてコーヒーひとつ選べやしない
飛行機で二時間離れた距離にいる魚は皆モーターで動く
両の目がプラネタリウムに慣れたころ投げ出されてく新宿の空
交差点右に曲がれば朝が来る　優しい色の自販機探す
目標のないロケットは帰らない雨風に濡れ少しずつ減る
東京を遠く離れたある島にまだ残ってるわたしの指紋
便箋の終わりに薔の絵を描いて暖かな日にまた会いましょう

競作

「あ、この事件の犯人はきっと優しいな」

なんでそう思ったの？

カラフルな付箋に「犯行予告ですご確認お願いいたします」（スコヲプ）

絶え絶えに踏み入る雪の山小屋で刑事が抱いた遺体がぬくい（迂回する案）

連れ去った女は齢七十五海までつづく足跡ふかく（はだし）

飛び出した腸を編みこみ冠を頭に乗せて歌う讃美歌（ナイス害）

荒らされた部屋に水槽夕食のサンマうようよ白目をむいて（泥口ボ）

たたたっと亀を触って消えてゆく君に世界の喉を教えて（恋をしている）

【編集後記】
東京にも大雪が降り、世間的にもなんだか落ち着かなかった２月はなんたる星にとっても新鮮なことばかりでした。
大雪で帰れずに連作の提出が遅れる人（恋をしている）が続出したり、初めてなんたる星で開催された歌会では一人を除いて（恋をしている）全員出席して無事成功をおさめたり慌ただしくも楽しい日々を過ごしてきました。
そして何といっても大ニュースなのがはだしが怪談短歌コンテスト大賞を受賞したことです。
３６００首以上の短歌の中からなんたる星の一人が大きな賞を射止めたことは非常に大きな出来事でした。後に書籍化までされるほどの大人気の賞なので、出版された時には皆さまお手に取っていただければと思います。
創刊号は５０ダウンロードを越えて、予想外に多くの人に見ていただきメンバー一同毎日小躍りが続いております。今回引き続きなんたる星を刊行できたのも読んでいただいている皆様のおかげです。なんたる星３月号をダウンロードしてくださった方々、見てくださった方々改めて本当にありがとうございます。
これからもちらちら視界の隅にうるさい星たちを、どうぞよろしくお願いします。

2014 3/2 恋をしている

雪のテラス、素敵、素敵、初めて分かったことがみんな星のように流れて――

執筆者
はだし(@sunsetsan0)
ナイス害（@NiceGuuuy）
泥ロボ(@sawayakanai)
恋をしている（@yayoikenumai）
迂回する案（@ukaian）
スコヲプ(@scope_scape)

なんたる星３月号
発行日：２０１４年３月２日
編集発行人：恋をしている
表紙絵製作：スコヲプ
Twitter：@nantaruhoshi
Mail：nantaruhoshi@excite.co.jp